

# ともに生きる

命・生き方

小学校中学年

道徳

さわやか3組 🕒 15分

## おばあちゃんと人形

(2005年放送)

### この番組の良さ



#### 人形に込められた思い

主人公まことの父は、介護士をしています。ある日、まことが小さい時に大好きだった人形を取り出し、「明日これを持って老人ホームにお手伝いにおいで」と言います。戸惑いながらホームへ行ったまことは、元助産師のかずよさんのお世話を頼まれます。しかし、かずよさんはまことの人形を見て、「これは私の人形よ!」と人形を奪い取ってしまいます。

#### まことの成長から学ぶ

人形を通じたまこととかずよさんのつながりや人形に込められた思いは、物語が進むにつれて明らかになってきます。そして、この体験からまことのお年寄りへの見方や人との関わりへの考え方が変わってきます。まことの成長を通じて、自分自身のことを振り返ることができます。

### 番組活用のポイント

#### お年寄りへの接し方

私たちは必ず年を取ります。そして、今まで当たり前できていたことが、次第に当たり前できなくなり、だんだん難しくなってきます。高齢者のそうした姿を見て戸惑っている子供たちにどんな言葉がかけられるでしょうか。

介護士であるまことの父は「自分が一番輝いていた時って、いつまでたっても忘れないものなんだよ。」と語りかけます。誰にでも、これまでの人生で一生懸命取り組んできたことがあります。そのことを生きがいにして生活している姿をしっかりと感じ取りながら接してほしい。高齢化社会といわれる今、高齢者の方々にどのような気持ちで接していくことがいいのか、この番組を通じて考えることができます。

#### 人はだれかのお世話になりながら生きている

ストーリーが進むにつれて、まこととかずよさんとの人形を通じたつながりが明らかになってきます。そのつながりや人形に込められた思いを知る中で、まことは自分だけの力で成長したのではなく、周りのお世話になって生きていることを学んでいきます。まことの気づきを子供たちに問いかけていくことで、自分自身の生活を振り返らせることができます。

#### 人とのつながりについての学習を総合単元的に

人とのつながりやよりよい生き方について、さらに理解を深めたい時は、他のティーチャーズ・ライブラリーの番組を資料として活用すると効果的です。道徳ドキュメント『みんなでいっしょに』や『家族ではないけれど』などが活用できます。学級の子供たちの実態に応じて、これらの番組と副読本の資料を関連させ、人とのつながりについての学習を総合単元的に実施することで、さらに効果が期待できます。

学習展開例

授業時間 45分



西条市立氷見小学校  
教諭 山内雅博

新着

# 人は支え合いながら生きている 人とのつながりを考えよう

とせいのまね

時間配分	学習活動	教師の支援
10分	① おじいちゃん、おばあちゃんについて話し合う。  ② 介護士という仕事について説明する。	○「おじいちゃんやおばあちゃんのことをどう思っていますか。」「おじいちゃんおばあちゃんは、どんなことが得意ですか。」などと問い、高齢者の方々について関心を持つことができるようにする。  ○介護士の仕事を説明することで、介護が必要な高齢者がいることについて、理解できるようにする。
15分	③ 番組を視聴しながら考える。   視聴 TV ・ホームで介護士の仕事をしているまことの父   ・人形についてかずよさんに話を聞こうとするまこと   ・人とのつながりについて、まことに話す父	○番組にひたることができるよう、メモはとらないよう指示する。  ○助産師の仕事内容が分かりにくいようであれば、一時停止し、言葉の意味を説明する。  ○「自分が一番輝いていた時って、いつまでたっても忘れないものなんだよ。」 「生まれた時は誰かのお世話になってるんだよなあ。気づかないうちに。」というまことの父の言葉(9分56秒)をしっかり押さえておき、次の学習活動につなげる。
10分	④ 番組の感想を書き、交流する。	○「生きがい」「人は誰かのお世話になっている」という言葉にふれながら、出てきた考えをまとめていくようにする。  ○ねらいにあった内容の感想を紹介するなどして、自分自身の生活や行動を振り返ることにつながるようにする。
10分	⑤ 今日の学習の振り返りを書く。	○今日の学習で学んだことをノートなどに書く。時間があれば、振り返りや感想を交流し、友達のいろいろな考え方にふれることができるようにする。